講師資格認定オーディション
筆記試験対策
～オルガン科R5／ピアノ科R5～

2011年春に行なわれた講師資格認定オーディションの筆記課題について、試験結果を分析し、正答率の低かった問題を中心に解説していきます。この解説を参考にして出題傾向のポイントを押さえ、次回の受験の準備にお役立てください。

オルガン科【R5】

R5では、音楽の一般知識を問う問題や楽典の基礎的な問題に加えて、オルガンの機能やローランド・ミュージック・スクールの音楽教育システムに関する問題が出題されます。今回は、オルガン全般に関する知識や、ミュージック・アトリエの機能についての問題の正答率が全体的に低い傾向が見られました。日頃からミュージック・アトリエのさまざまな機能に触れるとともに、ローランド・ホームページの製品情報ページや取扱説明書などに書かれた用語の名称やその意味を、一通りチェックしておくと良いでしょう。

次の楽語の意味を①～④より選び、番号で答えなさい。
設問17.「a piacere」
①ゆったりと　②元気よく　③自由に　④中くらいのはやさで
正解：③自由に

「a piacere」は、自由に、任意にという意味で「al piacere」と記される場合もあります。また、類似した意味の楽語にad libitumがあります。関連して覚えておくと良いでしょう。

Ⅳ（3）次の文章の中の［　］にあてはまる言葉を①～③より選び、番号で答えなさい。
設問28．チェロの楽譜をハ音記号で記す場合、通常は［(28)］譜表が用いられる。
①アルト　②テノール　③バリトン
正解：②テノール

①のアルト譜表と答えた方が多かったようですが、通常アルト譜表を用いて記譜する弦楽器はヴィオラです。チェロの楽譜をハ音記号で記す場合は、テノール譜表が用いられます。これらは、それぞれの楽器の音域が五線上の見やすい位置にくるように使い分けられています。

Ⅴ.（1）次の楽譜［　］部分に適したコードを選択肢より選び、番号で答えなさい。

選択肢　①Em　②G♯m6　③A♭　④E♭m　⑤Bm　⑥Fmaj7　⑦G　⑧E7
正解：(31)⑥Fmaj7　(32)①Em　(33)⑧E7　(34)③A♭　(35)⑦G

指示された箇所に適したコードを答える問題は、全体的に正答率が高かったものの、中にはやや正答率の低い問題が含まれていました。ここでは（34）を取り上げて解説します。まず、この（34）が含まれる小節のメロディーの中の特徴的な音であるE♭音を含み、かつ、メロディーとぶつからないコードとして③A♭と、④E♭mが候補となるでしょう。次いで、前後のコードの流れを見てみましょう。直前のコードはAm、直後はこれもメロディーの構成音などから⑦Gと推定されます。この前後の流れに当てはめると、ルートが順次進行（半音進行）となる③A♭が最もふさわしいと考えられます。

Ⅵ.（2）次の文章について、正しいものには○を、そうでないものには×で答えなさい。
設問45．オルガン科併用曲集の「ジュエリー」シリーズには、すべての曲に対応したミュージックデータが発売されている。
正解：×

「ジュエリー」シリーズでは、SMFミュージックデータはジュエリー②までしか発売されていません。すべての巻にデータが対応しているわけではありませんので注意しましょう。ちなみにレジストレーションデータは、ジュエリー⑥まで発売されています。

ピアノ科【R5】

R５では、音楽の一般知識を問う問題、楽典の基礎的な問題に加えて、指導法に関する問題やローランド・ミュージック・スクールのシステムについての問題が出題されます。今回は、全体の平均点は比較的高かったものの、「楽語」の意味を答える問題など、基礎的な問題における正答率の低さが目立ちました。日頃よく目にする「楽語」であっても、今一度正確な意味を調べるなどして、楽典の基礎をしっかりと見直しておきましょう。また、基本的な音楽ジャンルやリズムについても、種類やその背景などを一通りチェックしておきましょう。

Ⅰ．これから、音楽を５曲流します。曲にふさわしい言葉をそれぞれ①～③より１つずつ選び、番号で答えなさい。
設問 3.
①管弦楽　②吹奏楽　③室内楽　　正解：①管弦楽

会場で流れた音楽は、マーラー作曲、交響曲第２番「復活」終楽章の冒頭でした。管楽器の迫力ある響きを聴いて、②の吹奏楽と勘違いした方も多かったようですが、注意深く聴いてみると、バックで弦楽器の tremolo（トレモロ）が鳴っていることに気がつくでしょう。弦楽器は、弓で奏する arco だけでなく、tremolo や pizzicato などさまざまな奏法による音色のバラエティーを持っています。オーケストラの各楽器の奏法による音色の違いを意識して聴いてみると、何の楽器で演奏しているのかがよりわかりやすくなるでしょう。

Ⅲ．次の楽語の意味を①～④より選び、番号で答えなさい。
設問 15.「leggiero」
①活き活きと　②軽く　③１音１音はっきりと　④なめらかに　　正解：②軽く

leggiero は、「軽く」という意味の楽語ですが、④「なめらかに」(legato) と混同してしまった方が多かったようです。ちなみに、①「活き活きと」は、con brio や vivo、③「1音1音はっきりと」は、marcato という楽語になります。

Ⅳ.（3）次の文章の中の［　］にあてはまる言葉をそれぞれ①～③より選び、番号で答えなさい。
設問 30.　ボサ・ノヴァは、［(30)］のリズムをもとに生まれたものである。
①タンゴ　②サンバ　③レゲエ　　正解：②サンバ

ボサ・ノヴァは、1950 年代後半にブラジルの作曲家であるアントニオ・カルロス・ジョビンや歌手のアストラッド・ジルベルトらが中心となって生み出された音楽で、彼らの母国の踊りであるサンバにジャズの感覚を取り入れた、当時としては画期的なスタイルでした。

講師資格認定オーディション

筆記試験対策

～オルガン科R4-R2／ピアノ科R4-R2～

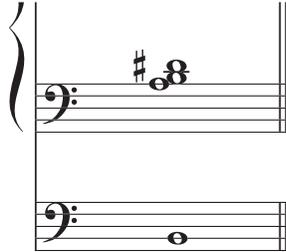
オルガン科【R4】

聴音課題のうち、実際の音楽を聴いて答える問題は、R5では編成、ジャンル、様式を選択するものでしたが、R4では楽器名を選択する問題となります。また、筆記課題では、非和声音の名称に関する問題が加わるなど、より専門的な知識を問う内容となります。今回は、筆記課題の中でメロディーの指示された箇所に適したコードやカウンターラインを答える問題の正答率が高かったものの、聴音課題については全体的に正答率の低さが目立ちました。まずは自分の弱点をよく把握して、試験に向けて対策を練っていきましょう。

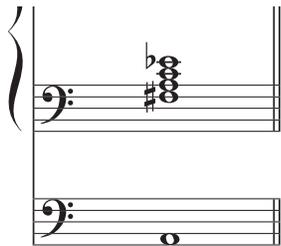
Ⅰ．これから、音楽を５曲流します。主旋律を演奏している楽器をそれぞれ①～③より１つずつ選び、番号で答えなさい。
設問２．①ファゴット　②クラリネット　③ホルン

正解：①ファゴット

会場で流れた音楽は、ラヴェル作曲「ボレロ」でした。ここでは、②のクラリネットと答えた人が多かったようです。確かに、該当箇所の旋律の音域はファゴットとしては非常に高く、通常はクラリネットなどが担うことの多い音域ですが、ここではあえてファゴットの音色の特徴を活かして用いられています。ダブルリード楽器であるファゴットと、シングルリード楽器であるクラリネットは、同じ音域でも音色はかなり違います。音域だけでなく、音色の違いを聴き分けることは、オルガンのレジストレーションの設定やアレンジをするうえでも非常に大切です。

次の和音にあてはまるコード・ネームを選択肢より選び、番号で答えなさい。
設問 37.

① B6　② Bmaj7　③ Bm6　④ Bm7　⑤ Bm7(♭5)　⑥ B7　⑦ Baug7　⑧ Bdim7

正解：⑥ B7

設問 38.

① A6　② Amaj7　③ Am6　④ Am7　⑤ Am7(♭5)　⑥ A7　⑦ Aaug7　⑧ Adim7

正解：⑧ Adim7

設問 37.では、④ Bm7と答えた人が多かったようです。また、設問 38.では、⑤ Am7(♭5)と答えた人が多く見られました。3度音（マイナーとメジャー）や、7度音（長7度、短7度、減7度）の違いを見落とさずに、確実に判断するように心がけてください。これらの基本的なコードの判別は、読譜やアレンジに欠かせないものです。コードの構成音とその音程関係をしっかりと把握し、すばやくコードネームが導き出せるように、コード・タイプを再確認しておきましょう。

オルガン科【R3】

ピアノ科と同様、聴音課題、筆記課題ともにR3より記述形式による問題が加わり、より実践的な内容になります。ここでは、アルト記号の譜面をヘ音記号の譜面に書き写す問題と、ジャズ、ポピュラーなど音楽全般に関わる問題、ミュージック・アトリエの機能に関する問題を採り上げて解説します。

Ⅲ．次の楽譜を見て、問いに答えなさい。

設問 10．下から2段目のパートはアルト記号で書かれていますが、ヘ音記号を使って記譜する場合、どのように書くことができますか。1～4小節目のみ、解答用紙の五線に記しなさい。

正解：

アルト記号は「ハ音記号」とも呼ばれる音部記号の1つで、ヴィオラの譜面では標準的に使われます。五線の第3線がいわゆる「真ん中のド」にあたるので、慣れないうちはそこを基準に考えて書き進めていく方法もあります。また、強弱記号や発想記号、テンポ表記など、音符以外の情報も、漏れのないようしっかりと書き写しましょう。

Ⅳ．（1）次の文章の中の［　］にあてはまる言葉をそれぞれ①～④より選び、番号で答えなさい。

設問 18．「ジャイアント・ステップス」などの作品で知られるジョン・コルトレーンは、［（18）］奏者である。

①ピアノ　②トランペット　③サキソフォーン　④トロンボーン

正解：③サキソフォーン

ジョン・コルトレーン（1926～1967）は、モダン・ジャズを代表するアメリカのサックス奏者です。「ジャイアント・ステップス」は、同名のアルバムのタイトルナンバーで、俗に“シーツ・オブ・サウンド”と讃えられている彼独自の高速奏法がいかんなく発揮されている1曲です。ジャズやラテンなどの分野に関する問題は、得意・不得意が分かれるところですが、有名なミュージシャンや演奏楽器、代表的な作品はしっかりと押さえておきましょう。

Ⅳ．（2）オルガンについて、次の文章が正しければ○、間違っていれば×で答えなさい。

設問 24．音色名に「AEx」と表記されているものは、アクティブ・エクスパンダー対応音色である。

正解：×

ミュージック・アトリエには「アクティブ・エクスパンダー」という機能はなく、正しくは「アクティブ・エクスプレッション」です。これに対応した音色は、鍵盤を押しながらエクスプレッション・ペダルを踏み込むことによって、音量だけでなく、音色が変化したり、別の音色が加わってきます。

オルガン科【R2】

ピアノ科と同様、オーケストラ譜の読み取りが新たに加わり、また、記述形式の問題が全体のおよそ半分近くを占めるようになります。今回は、オーケストラ譜の読み取りの問題では正答率が高かったものの、楽器の音域に関する問題では正答率が低い傾向にありました。オーケストラの楽器をアトリエで演奏する場合においても、実際の音域をきちんと把握しておくことが大切です。

Ⅲ.（2）楽器について、次の文章が正しければ○、間違っていれば × で答えなさい。

設問 15. チェロの最低音は　である。

正解：×

設問 16. アルトサキソフォーンの最低音（実音）は、である。

正解：×

チェロ、アルトサキソフォーンの最低音はそれぞれ右の通りです。設問 15. は、ヴィオラの最低音域を示しており、チェロの場合はこの1オクターブ下になります。設問 16. は、アルトサキソフォーンの記譜上の最低音を示しており、実音としては右よりも長 6 度下の D♭音にあたります。

Ⅲ.（3）オルガンについて、次の文章が正しければ○、間違っていれば × で答えなさい。

設問 19. ミュージック・アトリエの「ハーモニー・インテリジェンス」は、選んだボタンによって音色や発音の仕方が決定され、後から変更することはできない。

正解：×

オルガンの機能に関する問題です。ミュージック・アトリエの「ハーモニー・インテリジェンス」では、ハーモニー・タイプを選択したとき、自動的に音色や音量、オクターブ・シフトなどが設定されますが、自由に変更することができます。ただし、変更内容はハーモニー・タイプには記憶されないので、必要に応じてレジストレーション・ボタンに記憶させる必要があります。

Ⅳ.

コード・ネームに従って、（29）～（33）の空欄に音符を書き入れなさい。前後の関係も考慮して、ポジションや省略する構成音も工夫すること（二分音符、または全音符で記入）。

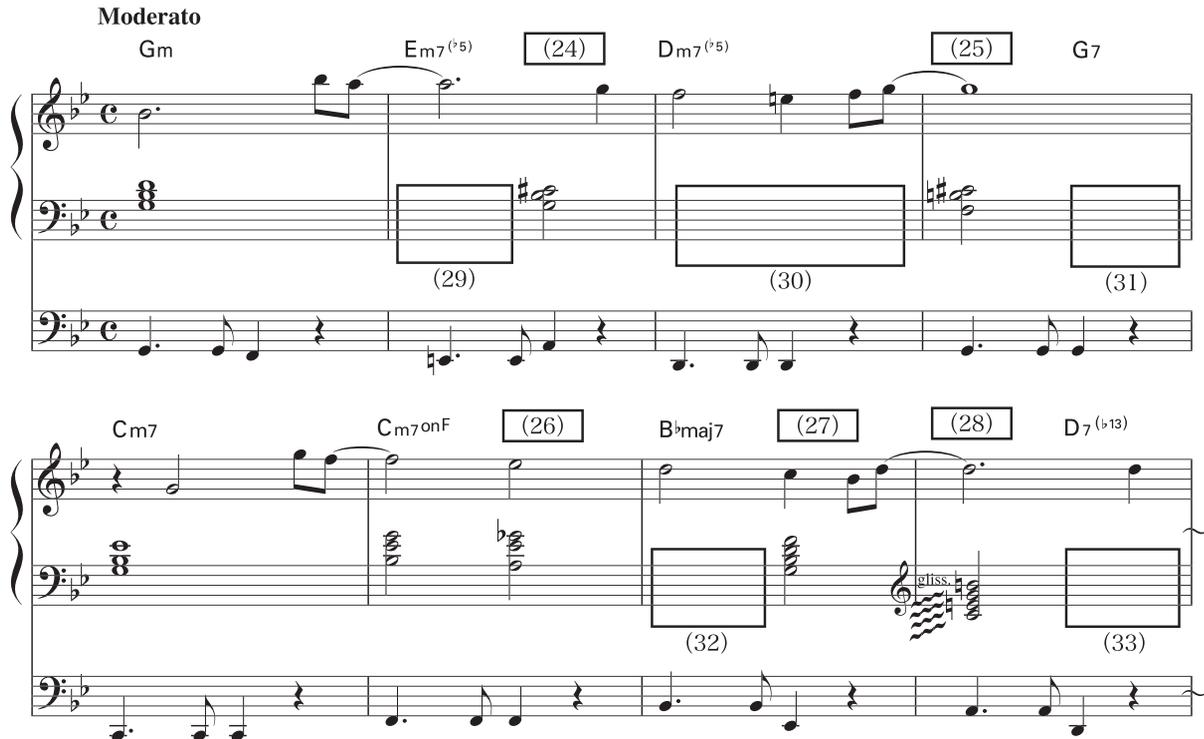
Moderato

Gm　Em7(♭5)　(24)　Dm7(♭5)　(25)　G7

(29)　(30)　(31)

Cm7　Cm7onF　(26)　B♭maj7　(27)　(28)　D7(♭13)

gliss.

(32)　(33)

正解：(29 ～ 32 省略)　(33)

指定されたコード・ネームに従って音符を配置する問題では、(33) の正答率が低い傾向にありました。(33) の D 7（♭13）というコードは、D, F♯, A, C音からなる D7 に、テンションの♭13th音を加えたものです。コードD 7における♭13thは、ルートから数えて♭13 ＝♭6 すなわち短 6 度上のB♭音となります。これと、コードの構成上必須である 3rd、7th 音を含め、前の和音の音域との自然なつながりを考慮してボイシングします（譜例のボイシングだけが正解ではなく、上記の要素を満たしていれば、正解となります）。

ピアノ科【R4】

R5と同様にすべての問題が選択肢による解答方式ですが、楽譜分析などの楽典問題がより高度になります。また、音楽を聴いてそのジャンルや様式を答える問題は、R4では主旋律を演奏している楽器名を答える問題になります。楽器名の選択肢には、比較的音色が似ているヴァイオリンとチェロのような同属楽器も含まれます。さまざまな楽器の音色を聴き分けるには、その楽器の音域や奏法など、特性の違いをしっかりと把握しておく必要があるでしょう。

Ⅰ．　これから、音楽を５曲流します。主旋律を演奏している楽器をそれぞれ①～③より１つずつ選び、番号で答えなさい。

設問４．①クラリネット　②フルート　③オーボエ

正解：①クラリネット

会場で流れた音楽は、チャイコフスキー作曲、「交響曲第５番第１楽章」の冒頭でした。ここは、「シャリュモー音域」と呼ばれる、低音域におけるクラリネット独特の音色が活かされている場面です。この音域はオーボエやフルートでは演奏不可能ですので、それぞれの楽器の音域を知っていればクラリネットが正解であることがすぐにわかるはずです。

なお、クラリネットの音域はとても広く、音域によって音色の特徴に大きな違いがあるため、各音域を指して「シャリュモー音域」、「クラリオン音域」などと異なった名前で呼ぶことがあります。音域ごとの音色の違いを知るには、例えばモーツァルトやブラームスの作曲した「クラリネット五重奏曲」など、各楽器の音が比較的聴き取りやすい室内楽がおすすめです。

Ⅲ．次の楽譜を見て、問いに答えなさい。

（10）～（13）の音の種類について、最も適切なものを①～⑤より選び、番号で答えなさい。
（設問10、11、13は省略）

設問12.
①経過音　②倚音　③刺繍音　④逸音　⑤和声音

正解：②倚音

非和声音の種類を答える問題です。ここでは（12）を⑤和声音と解答した人が多かったようですが、正解は②倚音です。
まず、この音が和声音であるか否かを考えてみましょう。和声音の一般的な定義は、和音を構成し、それ自体で独立可能な（どこかに解決する必要のない）音です。一方、非和声音（経過音、倚音、刺繍音、逸音など）は、和音の構成音に含まれず、必ず和声音に解決しなければならない修飾的な音です。前後の流れから見て、この小節の和音は、B♭、D♭、Fで構成される短三和音の第一転回型であり、問題のC音は和音構成には含まれず、また、次のB♭音（和声音）へと解決していることから、非和声音であることがわかります。
次に、非和声音の種類を考えると、直前の和音とタイでつながっていない（予備がない）ので、掛留音ではなく、後続の音に跳躍進行していないため、逸音でもありません。さらに、２つの音の間を順次進行でつなぐ経過音や、同じ高さの２つの音にはさまれた刺繍音でもないことから、倚音（＝予備なく始まり、順次進行で和声音へと解決する非和声音）であることがわかります。ちなみに、この譜例のように、倚音が頭拍にあり、強調されるケースは、特にロマン派の音楽に多く見られます。

次の楽語の意味を①～④より選び、番号で答えなさい。
設問 17.「ritenuto」
①少し遅く　②とても遅く　③はっきりと　④すぐに遅く　　正解：④すぐに遅く

「riten.」と略して記されることの多い楽語ですが、意味を曖昧に理解している人も多いようです。正しくは④「すぐに遅く」という意味です。「rit.（だんだんと遅く）」と混同しないように注意しましょう。

Ⅲ.（3）「　」内の言葉と関連のないものが１つあります。その言葉をそれぞれ①～③より選び、番号で答えなさい。
設問 27.「後期ロマン派」
①リヒャルト・シュトラウス　②ロッシーニ　③マーラー　　正解：②ロッシーニ

ロマン派の音楽は、初期ロマン派（おおむね19世紀前半）と後期ロマン派（おおむね19世紀後半から20世紀初頭）に分けて語られる場合が多く、初期ロマン派は、シューベルト、メンデルスゾーンなどが知られており、後期ロマン派は、ブルックナー、リヒャルト・シュトラウス、マーラーなどが知られています。ロッシーニは、19世紀前半にオペラ作曲家として活躍したイタリア出身の作曲家で、時代区分としては初期ロマン派に近く、後期ロマン派ではないので注意しましょう。

ピアノ科【R3】

R３では、聴音課題、筆記課題ともに記述形式の問題が加わり、より実践的な内容が出題されます。また、音楽の一般知識問題では、新たに「音楽史」について出題されますが、今回は、この「音楽史」に関わる問題における正答率の低さが目立ちました。音楽史の内容は幅広いため、まずは音楽史年表をチェックするなど、有名な事柄については確実に押さえておきたいところです。また、好きな作曲家やその作品の背景を調べるなど、自分自身の興味のある事柄から押さえていっても良いでしょう。

Ⅳ.（3）次の文章の中の□にあてはまる言葉をそれぞれ①～④より選び、番号で答えなさい。
設問 28.「クープランの墓」は、（28）の代表的なピアノ作品の１つである。
①サティ　②フランク　③ラヴェル　④ドビュッシー　　正解：③ラヴェル

設問 30. ベートーヴェンは、ヴァイオリン協奏曲を（30）曲、遺した。
①１　②３　③５　④７　　正解：①１

設問 31.「サンライズ・サンセット」は、ミュージカル「（31）」の挿入歌である。
①マイ・フェア・レディ　②メリー・ポピンズ　③ピノキオ　④屋根の上のヴァイオリン弾き
正解：④屋根の上のヴァイオリン弾き

設問 28.
「クープランの墓」は、ラヴェル作曲のピアノ組曲で、バロック時代の作曲家、クープランに敬意を表し、そのスタイルを模して作られた作品として有名です。ラヴェルは、19世紀末から20世紀初頭にかけて活躍したフランスの代表的な作曲家で、この「クープランの墓」以外にも「夜のガスパール」や「マ・メール・ロワ」など、著名なピアノ曲（組曲）を多く遺しています。ピアノ音楽史上においても重要な作曲家の一人ですので、しっかりと押さえておきましょう。
設問 30.
ベートーヴェンは、ヴァイオリン協奏曲は１曲しか遺していません（作品61）。しかしながら、このヴァイオリン協奏曲は、ベートーヴェンの傑作の１つとされており、メンデルスゾーンやブラームスのヴァイオリン協奏曲と並んで有名なものです。ベートーヴェンは、西洋音楽史上とても重要な作曲家ですので、交響曲やピアノ協奏曲など著名な作品名は一通りチェックしておきましょう。
設問 31.
ジェリー・ボック作曲の「サンライズ・サンセット」は、ミュージカル「屋根の上のヴァイオリン弾き」の中の結婚式のシーンで用いられるワルツ調の挿入歌で、このミュージカルの中では特に知られている曲です。ミュージカルからスタンダード・ナンバーになった名曲は数多いので、著名なものについてはぜひ覚えておきましょう。

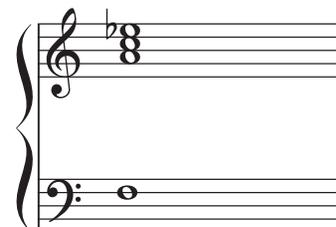
ピアノ科【R2】

聴音課題、筆記課題ともに選択問題は大幅に減り、オーケストラ譜の一部をピアノ譜にアレンジする問題など、五線上に音符を書く問題が多くなります。明確で、読みやすい楽譜が書けるように、日頃から楽譜を書く習慣を身に付けておきましょう。

ヴィオラ、オーボエの最低音はそれぞれ下図の通りです。

設問 16.
ヴィオラの弦は4本あり、それぞれの開放弦（指で弦を押さえていない状態）の音は、低い弦から順に「（中央Cの1オクターブ下の）C、G、D、A」となっています。よって、正解は × です。ヴィオラはオーケストラの内声部を支える大切な楽器ですので、その音域についてもしっかりとチェックしておきましょう。
設問 17.
オーボエの最低音は、一般的に“中央C”から2度下のB♭音となっています。楽器の音域に関しては、音楽辞典や管弦楽法の本などで簡単に調べることが可能です。主な管楽器の音域や奏法などの特徴は、今一度しっかりと押さえておきましょう。

Ⅳ.（2）次のコード・ネームや和声記号を実際の音符に書き改めなさい。その際、大譜表の下の段にベース、上の段に３つの音を密集配置で記しなさい。
設問 34. f-moll の $\overset{\text{Ⅳ}}{\text{Ⅴ}}_7$

正解：

和声記号は国や本によって表示方法がたくさんありますが、認定オーディションでは市販の主な和声書で使用されている記号を用いています。ここでは特に正答率の低かった設問 34. を採り上げましょう。
このようにⅤ7の上に小さくⅣが書かれている場合、主調に対して「Ⅳ度関係の調におけるⅤ7」という意味になります。つまり、この設問では主調である f-moll（へ短調）のⅣ度関係調（＝ b-moll（変ロ短調））のⅤ7を指しますので、構成音は「F、A、C、E♭」となります。